

選択した結果！

① 学校へ避難する

→車で橋を渡り学校へ避難しました！

しかし、浸水の恐れのある位置にあった▽小学校は、大雨時の避難場所になっていませんでした。



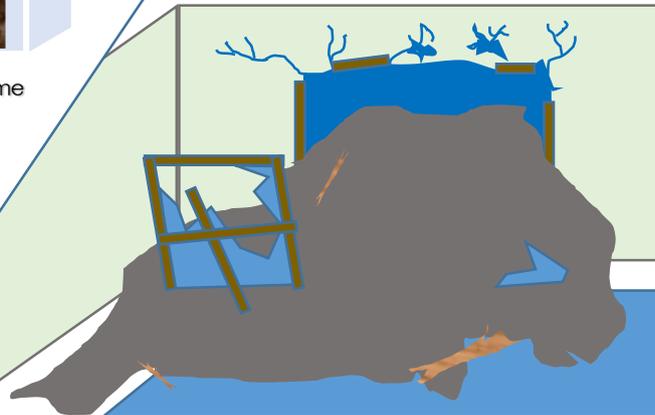
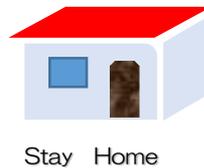
浸水の恐れ！
避難は公民館へ



② 家にとどまる

→もうすぐ雨もやむらしいので、避難をせず家で様子を見ることにしました！

しかし、家の裏山が崩れ家の中にも土砂が流れ込んできました。



③ 公民館へ避難する

→川が危険なので、川と反対の道から公民館へ車で避難することにしました！

しかし、雨と風で木が倒れ道をふさいでいて通ることができませんでした。

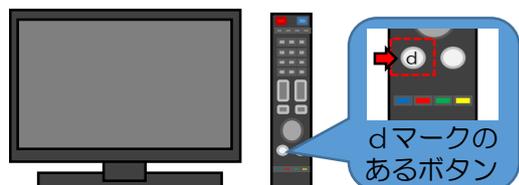


★参考資料★「他に必要・あったらいいなと思う情報」の収集方法

近所の人の話は正しい情報と曖昧な情報がありました。正確な情報を集めるために、例えば、このような方法があります。

◆テレビ

(dボタンからより詳しい情報を)



パソコンが無くても、dボタンから大雨情報や天気予報を見ることができます。

◆ラジオ

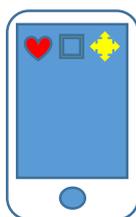
(停電時でも利用可能なものがより有効)



手動発電が可能なタイプや、ライトやスマホ充電機能が付いたタイプだとなお有効です。

◆スマートフォン

(事前にアプリを登録しておけばスムーズに情報収集可能)



- ・天気予報
- ・防災速報
- ・防災マップ など

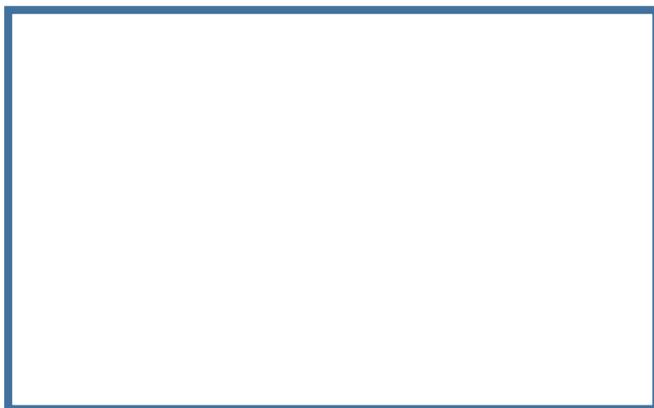
その他

- ◆インターネット
- ◆地域の防災無線
- ◆災害用伝言サービスなど

考えてみよう②

時は戻り、3日前。天気予報によると、急速な低気圧の発達により当分強いふり雨が続きそうです。あなたは早めに準備を行い、近くの市役所へ避難しようと思っています。近所のAさんへ声をかけましたが、避難するつもりはないようです。

◆あなたはどうする？



意見：50年間災害にあったことは無い。
今回も大丈夫だろう。

避難：しない

Aさん



解説資料 個人用 解説シート

こんなとき、あなたはどうする？～災害時 どんな情報をもとに 判断しますか？～
※シートを記入してから、この解説シートをご覧ください。

◆はじめに

このワークシートを地域や個人で取り組んでいただくことで、災害時に判断する際どのような情報が必要か、またどのように判断するのが適正かを考えていただくシートです。このシートに正解はありません。
考えていただくことに重点を置いて作成しました。

◆考えてみよう①

ワークシートが一番下にもあるように、書いていない情報は、自分で想像していただくようになっていきます。不足している情報が多いことで、より想像力を働かせて必要なものを考えていただくためです。

～回答例～

①学校へ避難する

- ・ Eさんの意見を聞いて、自分も一緒に避難しようと思った。
- ・ 川が氾濫する前に、広い避難所へ行こうと思った。

②家にとどまる

- ・ 情報が少なすぎて判断できない。
- ・ いまさら避難するのは危険だ。

③公民館へ避難する

- ・ 川から離れた場所へ避難しようと思った。
- ・ 家に一人も不安、川を渡るのも怖い。公民館へ行こうと思った。

◎ほかに必要・あったらいいなと思う情報

- ・ 詳しい地形(川のサイズ、山や土地の高低差、家と川や山の距離)
- ・ 家関係(平屋・二階建て・車の有無)
- ・ 家族の状況(一人暮らし・家族の有無・要支援者の有無・傷病者の有無)
- ・ 現在の状況(時刻・警報・降雨の状況・橋や道の状況)

◆**選択した結果！**

①～③のどのパターンを選んでも、無事ではありませんでした。

考えてみよう① 行動するのが遅ければ、どれを選んでも危険であるということに気づいていただくためのワークでした。

◆**考えてみよう②**

避難時に自分にできること・周りの人へできることを考えていただくワークでした。

～回答例～

- ・一人で避難するのは不安だから、一緒に避難してほしい。
- ・みんな避難の準備してるよ！明後日が一番危ないので早いうちに避難しよう。
- ・自治体から、避難指示がでるから、早めに準備して一緒に行こう。
- ・かえって意地になってはいけないのでこれ以上はやめよう。でも、近所の人には気にかけてもらえるよう伝えておこう。
- ・みんなに避難を促したいので、一緒に声かけをしてもらえないか。

◇終わりに

2018年7月の広島市の豪雨で避難行動に関する調査結果より

避難しなかった人は、73.7%、そのうち自己判断で避難しなかった人は44.2%というデータが出ています。

(ペットや場所を考えて避難しなかった人17.8%、情報を知らずに避難しなかった人4.6%、要支援孤立型で避難しなかった人7.1%)

この44.2%の人には、「自分は大丈夫(正常性バイアス)」「隣の人も逃げていないし(同調性バイアス)」という避難を遅らせる偏った思い込み(二つのバイアス)がかかっていたのではないのでしょうか。

※正常性バイアス…今までも大丈夫だった。今回もきっと大丈夫だろう

※同調性バイアス…周りが逃げていないのに、自分だけ逃げるのをためらう

災害時には、早めの避難・周囲への声かけも大切です。

近所の方なら、家族の状態やその人の性格もわかっているかもしれませんが。より安全な方法を日頃から考えてみてください。